

みなと元町 TOWN NEWS



No. 307

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

神田孝平公が県令を勤められた縁の神戸市を訪問して

岩手の歴史と文化を守る会 内海 清明

り養育した。幼少期は菁莪堂(旗本竹中家が人材育成のために設立した道場、菁莪とは人材を育成するとの意で出典は詩経)で柳溪などから教をうけた。17歳の時京へ出て牧百峰に漢学を学び、その後江戸に移り漢学を学んでいたが、ペリー来航を期に蘭学へと方向を変え杉田成卿・伊東玄朴等に学んだ。

文 久2年幕府の蕃書調所の数学教授を命ぜられ、明治に改まり新政府に出仕し公議所副議長等の役職を歴任したのち、明治4年兵庫県令として地方へ転出、明治9年元老院議員として中央に復帰し文部少輔・貴族院議員等を歴任し、明治31年(1898)7月3日男爵を授けられますが翌4日死去。

神田孝平の兵庫県政について南森先生の資料を基に考えたい。一番印象に残ったのは、「県令時代の施策は、神田が岩手竹中家中であり、竹中氏は戦国期より岩手の地を領地しており、家臣も半土半農であったのではないかと、それ故民の心がよく理解でき民に寄り添った政治が出来たのでは」との指摘であった。

① 民会の開設 会の議員は「官選」ではなく「民選」としていることに注目。
② 民間財本保護 民衆の財産は血脈と同様である。よって、これに損害を与えるような政策には手を出さなかった。
③ 道路整備・学校建設は「人民の義務」であり重要として推進した。

神 田の兵庫県政の特色は、「愚民」観をもとに「人民」の知的状態を改善しようとの考えが支配的であった明治初期にあつて、現状の「人民」を政治経済の担い手



南森茂太先生による講義(県民会館)

昨 年11月21日、垂井町文化財保護協会主催の現地研修として、神田孝平公が県令(現在の県知事)を勤められた兵庫県神戸市を訪問した。現地の兵庫県民会館で神田孝平の研究南森茂太(長崎大学経済学部准教授)先生より孝平の県令としての業績を講演頂き、谷口義子(神戸学院大学非常勤講師)先生よりは、孝平と関係の深い金星台について諏訪山の現地で説明をしていただいた。

私 の神田孝平についての認識は、岩手郷土史研究会発行の「岩手の人物」等で「幕末より明治維新にかけての激動期に国の近代化に関する多くの提言・施策を推進し大きな事績を残した人物。中でも特筆すべきは、明治3年に著した「田税改革の議」で、今までの土地からの収納に頼る不安定な税収を改めるため「土地の売買を許し、土地の所有者に「地券」を交付し、地租は地券記載の地価に応じて金納させるべき」と論じたことであり、この策は後に明治政府に取り入れられている。

そ の他活躍の範囲は、文化・教育・考古学等多岐にわたっている。また、郷土の菁莪学校の新校舎完成に際し、扁額の外、教科書・参考書と共に5千円(大臣の1年分の給与額)を贈った。程度であった。こうした中で、今回県令時代の業績を詳しく教えていただけるとの事で、此の研修旅行に参加した。

神田孝平の略歴 天保元年(1830)美濃国不破郡岩手の旗本竹中氏(交代寄合5千石)の家臣神田孟明の子として生まれる。父孟明は孝平が3歳の時に亡くなり、以後叔父の神田柳溪(頼山陽・牧百峰・柳川星巖・松崎謙堂等と交流があった。)が親代わりとな



神田孝平

二番踏切から宇治川までの校区は、間人寺子屋を借り上げ、神西小学校とした。兵庫県教育史によると、明治九年現在、摂津地方の小学校は民家三十八校、寺院一〇〇校、その他二校となつてゐる。民家にしる寺院にしる、寺子屋の看板を小学校名に書き換えたのが実態だった。ある地域では、国から要請された学校数を満たすため、一校の門柱に二校あるいは四校の名前を並列して届け出るところもあったという。

県令の神田孝平は明治六年八月十三日、文部省あてに、制定された規則は徐々に実施する積りですから、学校設立願いや不就学調査書提出を指示すれば、かえって混乱を生じ、ただでさえ学校をきらつてゐる民衆はますます嫌がり、開校した小学校を廃校にしてしまふかもしれませ

ん先日、文部省から巡視のあつた際くわしく説明して了解を得ているはず、と上申するが、十日後文部省から届いたのは「事情のほどはよくわかつたが、学校開業の儀は便法を許すこととはできないから必ず規則どおり提出せよ」の指

令だった。神田は、地域の状況を顧みない国の姿勢にも意見しながら明治七(一八七四)年四月、管内の学校へ数学教授本一六一部を寄付、奇特の事として太政官から木杯を贈られている。

二町・夢街道 ⑩ 書店の話(9) 鳩居堂(8) 岩田照彦

教科書関係の書籍出版を中心に、いち早く神戸で書店を開いた熊谷幸介だが、教科書やその関連書を使用する需要者側として、学校の状況はどうだったのか。新政府が児童の義務教育を宣言したのは明治五年(一八七二)八月である。「邑(むら)に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん事を期す」というのである。翌五年には、地域をわけて、それぞれに設立する学校数を指示したうえ、就学しない児童の発生を見越していたのか、就学不就学調査書の提出まで求める念のいれようだ。

小学校開設を指示はしたが、校舎(教室)の準備も含め、地元への丸投げである。教師を何処から雇い入れるのか。給料負担もある。負担に耐えられる授業料収入の見通しもない。頼るのは、地域内有力者からの寄付金だ。国からは補助金の名目で支援はあつたようだが、全国一斉の事業に多額の資金提供は不可能である。

元町の場合、明治六(一八七三)年、元町通三丁目にあつた善照寺の本堂を借りて西の町から松屋町までの地域児童を対象に神東小学校が誕生している。

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 3月

◇元町1番街商店街振興組合 TEL.331-7850

元町占市 3月14日(水)12時~17時

元町1番街水曜市 3月21日(水)10時~19時

◇元町6丁目商店街振興組合 TEL.367-5477

モトク灘の酒ストリート2018

3月23日(金)17時~21時

3月24日(土)15時~20時

◇風月堂ホール(有料) TEL.321-5555

もとまち密席「愚雑亭」

3月10日(土)

笑福亭 呂竹 笑福亭 たま 笑福亭 達瓶

笑福亭 仁嬌 桂 三歩 月亭 八方

前売券は2月11日より風月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL.361-4523

3月1日(木)~3月6日(火)

第21回 遊遊会 水彩画展(水彩)

3月8日(木)~3月13日(火)

第35回運洋会展

3月15日(木)~3月20日(火)

第8回グルーボンフィア展(油彩・水彩)

3月22日(木)~3月27日(火)

「神戸残像」(昔の風景と今をCGと写真で)(CG・写真)

3月29日(木)~4月3日(火)

兵庫倶楽部 第55回写真会写真展(写真)

◇元町映画館(有料) TEL.366-2636

3月3日(土)~3月9日(金)

「OP PICTURES+フェス2017」

3月3日(土)~3月16日(金)

「生きる街」・「花筐/HANAGATAMI」

3月10日(土)~3月16日(金)

「なっちゃんはまだ新宿」

3月10日(土)~3月23日(金)

「YARN 人生を彩る糸」

「オラファー・エリアソン 視覚と知覚」

3月17日(土)~3月23日(金)

「静かなふたり」

3月17日(土)~3月30日(金)

「被ばく牛と生きる」・「デヴィッド・リンチの映画」

3月24日(土)~4月6日(金)

「デヴィッド・リンチ:アートライフ」

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は2月9日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目自治会)奈良山喬一、(広島銀行)船越伸、(兵庫県信用組合)常深雅子・八木基裕、(パナホーム)宮崎哲弘、(三鈴マシナリー)稲岡千硯、(大一産業)石井淳麻、(神明)藤野太地、(神明倉庫)藤尾憲弘・十時実希、(㈱イーエスプランニング)谷川原吉彦、(佐野運輸)志賀俊之・北島幸宏、(新光明飾)中川俊・大森貴美子・藤田直之・西村友博、(佐田野不動産)佐田野宏之、以上、18名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



編集後記 元町夢街道で、兵庫県第七代知事・神田孝平を紹介した。その話が、同氏の生誕地である岐阜県垂井町の方面にとまり、神戸における神田孝平の足跡を学ぶため、垂井町文化財保護協会の主催で神戸を訪問された。神田孝平県令(知事)のころは、元町の通りの幅も約四辺の頃、学校の建設より道路拡幅が先と事務引き継ぎ書にあってのが印象に残る。全国に先駆け県議会の開いたほか、県庁機構の整備や病院の開設、居留地会議を通じ外国人との幅広い交友、新聞の創刊などなど、県令として活躍された分野はケタ違いに広い。神田孝平生誕地から同氏赴任地神戸への声を、とお願ひし、原文のまま写真を添えて二面に紹介させていただきます。

海という名の本屋が消えた (52)

平野義昌

松方幸次郎 その2

1916~18(大正5~7)年、松方幸次郎ロンドン滞在時の国内外情勢を簡単に記す。14年に勃発した戦争は、ドイツ・オーストリア陣営対イギリス・フランス・ロシア陣営に分かれた。戦闘はバルカン半島からヨーロッパ、中東に広がり、アジアでは日本が中国ドイツ領を攻撃した。16年6月北フランスでドイツ軍とイギリス・フランス軍が激突、両陣営共に多くの死傷者が出た。17年2月ドイツ潜水艦が商船に無警告で攻撃を開始。同年4月アメリカ参戦。8月アメリカが日本向け鉄材輸出を禁止。日本にも、船を建造する川崎造船所にも、鉄最大輸入元の商社・鈴木商店にも、大打撃である。幸次郎と鈴木大番頭・金子直吉が連携してアメリカに船と鉄交換交渉を行う。11月ロシア革命。18年米価高騰による米騒動が全国に波及、8月神戸では暴徒化した群衆が鈴木商店本店を焼き討ちする。同月幸次郎アメリカ経由で帰国。幸次郎は、戦争はまだ続き、船の価格は下がらないと予測していた。だが、11月終戦。

100年前、日本は第一次世界大戦の影響で好景気だった。神戸には日本最大の造船所と総合商社が存在していた。《船成金》に代表される富豪も出現した。歓楽街、商店街、花街が賑わい、庶民の娯楽や文化も恩恵を受けた。この活況は遠いヨーロッパの大戦争の上に成り立っていた。

幸次郎の兄弟で《松方コレクション》に深く関わる人がいる。長兄・巖は川崎造船所のメインバンク・十五銀行頭取、後に十五銀行は《松方コレクション》を差し押さえる。次兄・正作は外交官で、彼が幸次郎にイギリスの有名な画家と会うことを勧めた。幸次郎の協力者となるフランク・ブラングインである。正作は音楽・美術好きで、ロンドン公使館勤務時代(1901・02年)に画壇の名士ブラングインと親交を深めていた。

《松方とブラングインの初対面が正確にいつであったかはわかっていない。だが、ブラングインがキャンパスの裏に「1時間で描く」と記した松方の油彩肖像画には1916年の年記がある。モデルのリラックスしたポーズ、闊達な筆遣いには、出張初年のおそらく早い時期に画家のアトリエ兼住居を訪れた松方と画家の交遊が急速に深まったことを示唆している。》^{註1}

《松方コレクション》協力者の証言がある。〈……松方さんは川崎造船所の主で、一生を造船や重工業の間に働いた人、ブラングインはまた造船所とか港風景とかそこに働く筋肉隆々たる労働者とかを描くことをもっとも得意とした大画家。二人共船好き、工場好き、逞しい男性美好きという点で、趣味まで一致したと言えよう。》^{註2}

幸次郎はブラングインの絵を購入するだけではなく、蒐集についても相談した。戦争激化により、幸次郎の行動はほぼイギリス限定で、蒐集もイギリス絵画が中心になる。ブラングインは絶好の相談相手だった。

この時期、幸次郎は浮世絵コレクションも入手した。

〈知友ブラングインは俵屋宗達を絶賛し、画商も

安藤広重や葛飾北斎、鈴木春信、喜多川歌麿らの名前を盛んに口にした。西洋画を買おうとしているのに、逆に日本の伝統絵画や浮世絵について質問を浴びる。》^{註3}

19世紀後半、鎖国を解いた日本の浮世絵がヨーロッパ、特にフランスで大人気になった。大量の浮世絵が日本から流出した。ゴッホら画家たちも構図・技法・色彩など大きな影響を受けた。ジャポニズムの隆盛である。

大阪の美術商・岡田友次(山中商会ロンドン支店長)が商用先のパリで浮世絵コレクション売却情報を得た。宝石デザイナー・宝石商、アンリ・ヴェヴェールがドイツ軍侵攻に備え、売却を決意した。広重1692枚、歌麿694枚、北斎673枚など計8000枚余り。条件は、コレクション一括・価格10万ポンド(当時1ポンド10円)・期限2週間以内。岡田は神戸の富豪(船成金)に手紙で知らせたが、間に合いそうもない。幸次郎に報告したところ、購入を即決。幸次郎は浮世絵に詳しい訳ではなかったが、日本の芸術的遺産流出を「国民として恥ずかしく、国家として不名誉なこと」と考えた。岡田は意気込みに感じフランスに向かう。手数料も受け取らなかつた。^{註3}

幸次郎は鈴木商店ロンドン支店に代金立て替えを頼んだ。岡田はドイツ潜水艦が出没するドーバー海峡を渡り、汽車に乗り、コレクションの疎開地まで金を運び、時間をかけて作品を点検し、また海峡を越えロンドンに持ち帰った。幸次郎の決断と岡田の決死の行動がなかったら、このコレクションはアメリカの美術館に渡っていただろう。また、戦争がなければ売却されることもなかった。

〈……その点からいえば、このコレクションの推移は、きわめて劇的なものというほかない。ヴェヴェール自身も、浮世絵の故国への里帰りに応じるということから、売却に対する名分がたつたのである。》^{註4}

幸次郎の絵画購入資金は会社から送金される給料(ロンドンに半額送金)だが、購入額が大きくなると、鈴木商店ロンドン支店が立て替えた。鈴木から神戸の幸次郎宅に請求する。岡田が確認した鈴木への支出金額は、ロンドン52万ポンド、パリ20万ポンドだった。幸次郎の購入が多いのは事実だが、アメリカやロシアのコレクターたちが競い合ったため価格が上がっていた。^{註3}

研究者が当時の幸次郎の絵画購入報道記事を紹介している。曰く、造船業者で英語完璧な日本人がロンドンで珍しい絵を購入、画家の有名無名に拘らず、他人の取り引きに影響されず、良い絵と思うものを即決、価格に文句を言わ



2016年松方コレクション展チケット(ブラングイン作「松方幸次郎」)

ない云々。^{註1}

幸次郎は、絵画をどのようにして持ち帰るか、どう生かすか、について考えがまとまっていなかった。岡田が美術館建設のアイデアを出した。日本には西洋美術を収蔵し、市民に公開できる美術館がなかったし、国が建設する見込みもなかった。(岡田が進言した美術館構想は、幸次郎を揺り動かした。膨大な絵画を私物化する気はさらさない。しかし、それを国に寄贈しても、政府は美術館建設など端から頭がない。絵画を死蔵しないためには、手は一つしかなかった。私財をなげうって自分で美術館を建設するのだ。)^{註3}

幸次郎はブラングインに美術館の構想——絵だけを見せるだけではなく、西洋の文化そのもの、絵画が生み出される環境も知らせる——を話した。ブラングインも共感し、設計を快諾した。館名は当初「ブラングイン美術館」だったが、「南無共楽美術館」になり、最終的に「共楽美術館」と決まった。「松方美術館」としなかったことが、幸次郎の人間性を表している。

1919(大正8)年春、ロンドンの岡田から船便で美術品が届き出し、造船所内で保管。秋にはブラングインから美術館設計図が届く。〈……本館は正面の幅約75m、奥行きは80m(原寸はフィート)であり、真中に噴水のある中庭がある。採光と憩いのためであろう。後ろに工芸館が約15×75mで一棟立っている。(後略)》^{註5}

外壁は赤レンガに白・黒が交じり、中庭の周りに回廊がある。敷地内に日本庭園があり、富士山を借景に取り入れている。

この年、船価は急激に落ち込み、前年の半額以下(1トン当たり900円が400円)になった。戦後不況の下、労働運動が台頭してくる。川崎造船所でも労働者側が賃上げを求め、ストライキ決行が迫る。幸次郎は団体交渉で、8時間労働、日給は従来より10時間労働と同額、残業に賃金を出す、と提案して解決した。幸次郎の先進的で大きな決断だった。

幸次郎は壮大な美術館計画を松方一族や専門家に披露する。しかし、この構想は幻に終わる。

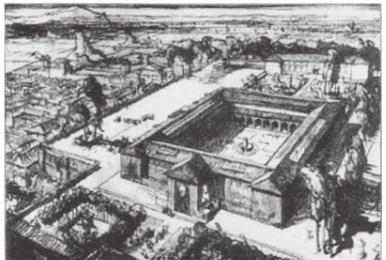
註1 湊典子「コレクター松方幸次郎とその蒐集」(『松方コレクション展——松方幸次郎夢の軌跡——』カタログ 神戸市立博物館 2016年)

註2 矢代幸雄「松方幸次郎」(『松方コレクション展 いま甦る夢の美術館』カタログ 神戸市立博物館 1989年、以下「1989年展」カタログ)

註3 神戸新聞社編「火輪の海——松方幸次郎とその時代——(上・下)」神戸新聞総合出版センター 1989~90年(全1巻復刻版2007年刊、同新版が2012年刊)

註4 岡泰正「松方コレクションと浮世絵」(『1989年展』カタログ)

註5 越智裕二郎「松方コレクションについて」(『1989年展』カタログ)



共楽美術館鳥瞰図(1989年展、カタログ)

出来事ファイル (No.18-3)

■鳥居 隆氏 神戸住まいまちづくり公社代表理事に

企画調整局を皮切りに、建設局時代は、弊協議会地域を管轄する中部建設事務所所長として、地域内の道路整備などに活躍いただいた。その後は、都市計画総局計画部長として神戸市内各地域のまちづくり活動のまとめ役から副市長に。平成30年1月、まちづくり



専門家派遣事業など、弊協議会と関係の深い諸事業を行う(一財)神戸住まいまちづくり公社代表理事に就任された。

■D51ひろば整備は来年度以降に

もとまちハーバー懇談会は、月に1度の間隔で、昨年からは神戸市とともに相生町にあるD51ひろばの清掃作業をはじめた。D51ファンとの協働で、退屈そうなD51のためにも、ささやかなイベントが開催できないか、協議会は管理者の神戸市に提案。事業協力に理解は得たものの、整備が先決として、実施は来年度以降になる見込み。



■元町商店街 オリンピックバナー掲出

2月10日から始まった平昌オリンピック、神戸市から出場する3選手のバナーが元町商店街の1丁目から3丁目まで、山側の街灯に掲出された。バナーは、「祝平昌オリンピック出場 神戸市出身」としてフィギュアスケート女子シングル坂本花織・フィギュアスケートアイスダンス村元哉中・ショートトラックスピードスケート横山大希の3選手。



■神戸ゆかりの音楽家3人によるコンサート

元町商店街連合会は2月19日(月)18時30分から、神戸元町ミュージックウィーク実行委員会との共催で、「神戸ゆかりの若手音楽家3人によるミニコンサート」を風月堂ホールで開いた。出演は鈴木優人、白井圭、弊隆太郎の3氏。申し込まれて選ばれた180名のみなさんがモーツァルトの「トルコ行進曲」、クライスラーの「愛の悲しみ」などを楽しんだ。



■住宅展示場にホテル「聚楽」進出

関東・東北などでホテルやレストランを展開する「聚楽」が、「NTT都市開発」(東京)と共同で、神戸駅前の住宅展示場の敷地に地上13階地下1階、延べ約1万3600平方メートルの複合施設を建設する計画が明らかになった。西日本初となる同社のホテルは客室250室程度の見込みで、2020年度完成予定。同建物にサンテレビも入居する。(12月9日神戸新聞より)



■ソフトタッチで神戸タータンPR作戦

小人数で取り組んだ神戸タータンを神戸の顔に、とスタートした事業は、市内のさまざまな業種で関心を呼び、さまざまな業種に広がっている。なかでも1番街商店街でまちなみ委員をつとめるウェディングサロンの井上さんは、自ら神戸タータンの蝶ネクタイを製作、神戸タータンが似合う神戸人を通じ、神戸の顔にと、多忙ななかソフトなタッチでPR。



バー「サヴォイ」の木村義久さん(右)と井上芳昌さん(KOBECCOより)

■元町4丁目に保育園お目見え

マンションの増加にとまない、元町界隈に保育園の開設計画が目白押しの恰好だ。元町4丁目商店街の7階建てマンション(学生寮)スパチオ元町の、商店街に面した1階で「(仮称)元町はつと保育園」の開園準備が進む。3月中旬に内装工事を終え、社会福祉法人「種の会」が運営する。1~2歳児が対象で、保育時間は7時~19時まで。



■元町1番街にデジタルサイネージ登場

元町1番街商店街では、案内所のまにデジタルサイネージを設置、来街者に商店街情報のスライド掲示を始めた。画面サイズは1428×803mm。兵庫県や神戸市から防犯・防災を含む各種情報、元町商店街組合員店舗の紹介や最新のイベント情報を流す。インバウンド対策として、必要な情報には英語や中国語による表現も準備している。



■南京町にゲストハウスお目見え

南京町商店街振興組合の事務所面に面した通り(九龍街)に、このほど「ゲストハウス神戸なでしこ屋」がオープンした。4~8名が宿泊できる女性専用、男女相部屋ドミトリーのほか、最大3名が利用できるプライベートルームの構成。シャワー、洗面、トイレは共用。ムスリム礼拝室もある。料金は1名/3200円から。☎078-599-7305。

